

(2) 主な風水害

(1) 昭和34年 8月13日 台風7号

四国沖に停滞した低気圧が台風7号の北上によって8月12日から13日にかけて四国各地に前線小豪雨を降らせ、各河川の増水は甚しく各地に被害をもたらせた。

(2) 昭和34年 9月26日 台風15号 (伊勢湾台風)

9月21日サイパン島附近に発生した熱帯性低気圧は22日台風15号となり発達しながら、本州に接近した。中心気圧 895 mb, 中心風速70m/sec, 暴風半径 350kmに及ぶ超A流の台風で、26日夜半には潮岬西方に上陸し、紀伊半島東部を縦断し、富山県を通り、日本海に出たこの台風によって各河川は大出水となり各地に大きな被害を生じた。

(3) 昭和36年 9月16日 第2室戸台風

A級の台風で四国各地を襲い大きな被害をもたらした。

(4) 昭和36年 10月26日～27日

秋雨前線豪雨

(5) 昭和38年 6月4日

集中豪雨

(6) 昭和38年 6月13日 台風3号

(7) 昭和38年 8月9日 台風9号

(8) 昭和39年 9月24日～25日

暴風雨・波浪・洪水・高潮警報発令

(9) 昭和40年 9月10日 台風23号

(10) 昭和40年 9月13日～17日

集中豪雨ならびに台風24号

(11) 昭和43年 8月29日 台風10号

(12) 昭和46年 8月5日 台風19号

(13) 昭和46年 8月29日 台風23号

強風、波浪、大雨注意報発令、山くずれ、道路決壊などの被害が大きかった。

(14) 昭和47年 7月3日～6日

集中豪雨

(15) 昭和47年 7月24日 台風9号

(16) 昭和47年 9月15日～16日 台風20号

(17) 昭和49年 7月4日～7日 台風8号

集中豪雨

(18) 昭和49年 8月31日～9月1日 台風16号

(19) 昭和49年 9月8日～9日 台風18号

(20) 昭和50年 8月17日～19日 台風5号

(21) 昭和50年 8月21日～23日 台風6号

(22) 昭和51年 8月17日～18日 台風5号

(23) 昭和51年 9月8日～13日 台風17号

この17号台風においては豪雨によって道路決壊、がけ崩れ、耕地の流失等の災害を受けた。山城町における降雨量は628.5mmであった。

(3) 千坊の山崩れ

山城町末貞通称千坊の山は地滑りの起きているところである。昭和49年7月21日夜から、土砂や岩石が崩れ出し、現地調査の結果近く大崩壊が予想された。町は役場内に「川口5組山崩れ災害対策本部(本部長外峯繁市町長)を設置した。とりあえず同山の下側にある22戸75人を町公民館に避難させると共に国道出張所、警察と連絡をとり32号線の全面通行止を行い、町職員・消防、警察、国道出張所、池田土木の職員60人が常時待機して現地に出勤。地滑の状態を監視し、立入等の警戒に当たった。22日から23日・24日と次第にキ裂は大きくなり、警報機も鳴りばなしで近寄れない状況でただ崩壊を待つのみであった。24日午後9時30分、ついに大音響とともに長さ10米、高さ15米にわたって崩壊1,000立方メートルの土砂は山腹で止まったが、5tから20tある巨岩が下側にある民家に落下し、全壊1・半壊2の被害があった。岩石は国道のガードレールを越えて吉野川へ落ちたが国道の損傷はなかった。建設省は住宅の裏側に山の落石防護のH鋼(長さ50米高さ3米)のサクを8月15日ま

でに建設した。又県も崩壊した山腹に防護サクを数カ所つくり危険防止に当った。

期間中最大雨量

設置場所	1時間最大雨量
鈴木良範方	26.0mm
蔵敷文美方	25.0mm
山城消防署	33.0mm
伊予川ダム	26.0mm
早明浦ダム	27.0mm
新宮ダム	29.0mm

出水記録

つぎに昭和50年、51年の出水の記録をかかげる。

(水資源開発公団池田総合管理所)

50年8月17日	台風5号	下名水位	20.04m	祖谷口水位	22.00m
50年8月23日	〃6号	〃	13.70m	〃	19.49m
51年7月24日	〃12号	〃	10.48m	〃	9.99m
51年9月13日	〃17号	〃	20.79m	〃	22.86m

(最高水位)

降雨量記録 (日雨量 各年100mm以上)

月	日	雨量 (mm)	備考
昭和40年	9月10日	174.5	台風23号
	9 14	180.2	集中豪雨台風24号
	9 15	125.4	
	9 16	149.7	
	9 17	128.6	
41	9 18	148.0	
42	7 9	146.9	
	10 27	141.8	
45	8 21	231.7	

月	日	雨量 (mm)	備考
昭和46年	7月1日	256.0	
	47 9 16	136.6	台風20号
	49 9 9	219.3	台風18号
	50 8 17	116.5	台風5号
	8 22	120.5	台風6号
	8 23	121.0	〃
	51 9 10	162.0	台風17号
	11	123.5	〃
	12	118.0	〃

資料 四国電力伊予川えんてい

土石流対策雨量基準(徳島県)

異常豪雨の発生によって、平常一見安定した河状及び林相を呈している地域に土石流が発生して人家集落が潰滅的被害を受ける事例が多いので、町は危険性のある区域にその対策として簡易雨量計を設置して観測するとともに、警報の伝達、避難等が適切に行われるよう警戒体制の整理をととのえている。尚、雨量基準として県では次のとおり警戒雨量、危険雨量を定めている。

警戒雨量

連続雨量	200mm以上
日雨量	150 〃
6時間雨量	120 〃
4時間 〃	100 〃
2時間 〃	70 〃
1時間 〃	50 〃

危険雨量

連続雨量	300mm以上
日雨量	200 〃
6時間雨量	180 〃
4時間 〃	150 〃
2時間 〃	100 〃
1時間 〃	60 〃

(4) 小歩危ダム対策について

昭和43年9月、電源開発より小歩危ダム着工計画について突然説明会が行われ、これが山城町に及ぼす影響が極めて重大なるに鑑み町議会として直ち